

地域を愛し、誇りに思う。これからの『まちのわ』が
もっともっと人と人をつなげてくれますように。

「まちのわ」区民編集員座談会



〔参加者〕
浅田興司 区民編集員養成講座一期生(帯山校区)
太田恵美子 区民編集員養成講座一期生(本荘校区)
真辺和博 区民編集員養成講座一期生(一新校区)
芥川道子 区民編集員養成講座二期生(慶徳校区)
林幸子 区民編集員養成講座二期生(碩台校区)
前淵啓子 中央区長

『まちのわ』では、4号にわたり、各校区で活動する人々やその取り組みを紹介してきました。また、各校区でさまざまな取組を紹介していただくために、区民編集員養成講座も開講。実際に、取材なども行いました。この区民編集員の方々へ、創刊年の振り返り、そして、次の『まちのわ』への期待を語っていただきました。

各校区独自の取り組みが
よく伝わった創刊年

前淵：「まちのわ」が創刊されて一年、皆さんには最初からご協力いただいていたことに感謝しています。浅田：私は正直なところ文章を書くのが苦手で。でも、記念すべき創刊の年ということで、第一号の「中央区探訪の取材に行きました。真辺：私が住む一新校区は昔ながらの地区と新興住宅地が混じり合っていて、自治会運営もなかなか難しいのですが、『まちのわ』が少しでも地域づくりの役に立てばと思っています。

太田：校区で広報を手がけているので、編集員養成講座の実践的な指導が勉強になりました。

芥川：私は主人の定年後、主人の故郷である熊本に転入したんです。前の土地でも自治会活動や広

「中央区今昔」。これには、心がときめきましたよ。(芥川)

報誌編集に携わっていたので、熊本でも役に立てればと思っっています。林：私は何か目に留まったことを発信できればと思っって参加しました。

前淵：できあがった『まちのわ』はいかがでしたか。

浅田：印象に残ったのが、五福校区の「すり鉢舞い」の復活。昔を大事にしているすばらしいと思っました。

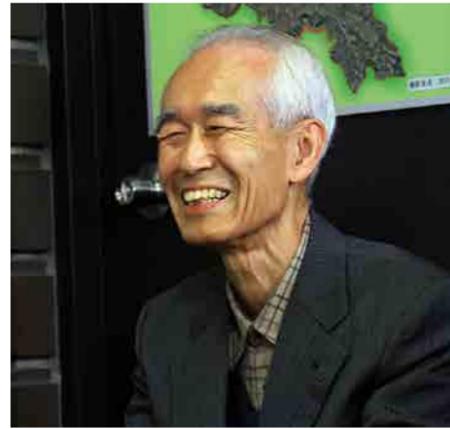
芥川：私は第一号の「中央区今昔」。これには、心がときめきましたよ。一新校区の初詣にも参加しました。普段素通りしているところにもいろいろ歴史が隠れていることも知りませんでした。

林：私はやっぱり、それぞれの校区の取り組みに感心しました。自分の地区のことで知りたいことがあったのですが、「この方に聞けばいい」という情報も得られたし。

太田：各校区の独自性が発揮されたイベントがたくさん取り上げられていましたよね。私がある本荘校区でも、本荘ならではのものを作り上げたいと感じました。

住民同士のつながりを作る
情報発信が必要

前淵：それぞれの校区で個性ある取り組みをしているのに、校区外の人はもちろん、校区内にもそれを知らない人がいる。『まちのわ』



浅田興司さん

の創刊は、それらを知ってもらうために、なにか目に留まるものを作ろうということが出発でした。林：まだ『まちのわ』そのものを知らない人が多いのが課題ですね。前淵：どうやって情報を皆さんにお届けするかが悩みなんです。回覧板でまわすと手元に残らないでしょう。

芥川：マンションだと回覧板も個別には来ません。届けてほしいって、お願いしたくらいです。

林：それに、校区内の交流はもちろん、校区を越えたつながりも必要ですよ。特に災害時などは、私の地区には白川がありますが、避難先の学校が白川沿いなら、校区を超えて逃げないといけません。

太田：本荘校区も白川が流れています。たとえば白川沿いの校区が連携して健康をテーマにしたイベントをやると校区を超えた交流も



真辺和博さん

できますね。

芥川：そんなイベントと防災訓練を一緒にやるといいかも。

真辺：うちはね、子ども会をよく巻き込んでますよ。子ども会ががんばってもらうと、なかなか日頃、地区活動に参加できない忙しい親御さんも手伝ってくださるから、交流もできるでしょう。

浅田：その情報発信も、「やってますよ」だけの報告じゃだめ。ど

来てくださーいという気持ちで伝わって、
行ってみたいよーと思わせる情報発信を(浅田)